

## 令和元年度 全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

見えない相手を繋ぐ税

河合町立河合第二中学校 松井 春樹

税金は様々な人を繋ぎます。この言葉は僕が幼いころに読んだ本の見出しでした。しかし僕は当時幼くそのときはまだ税の仕組みも分からず、税を払っている対象が見えていませんでした。

2011年3月11日大きな地震が街を飲み込みました。僕の叔父は、東北に住んでいたのですぐにテレビをつけました、そのときの光景が今でも目に焼き付いています。それは、瓦礫まみれの真っ黒の街で賢明に救助活動をしている自衛隊の方がたでした。幼い僕ながらこの時の衝撃は大きく、テレビから目を離せずにはいました。幸いにも叔父は無事でしたが、今でも自衛隊の方には感謝をしています。

東日本大震災から何年かたち叔父に会いに行きました。叔父の車に乗り、小高い山をのぼりきったとき、

「なんて綺麗なのだろうか。」

僕は思わず声を出してしまいました。それは、瓦礫はほとんどなく、真っ黒だった海はうそのように澄み渡り、白い砂が広がっていたからです。

「いろんな人達の協力でゆっくりと、ゆっくりと、綺麗な街になっていったよ。今じゃ仮設住宅だけじゃなく普通の家に住んでいる人もいるからな。」

叔父は嬉しそうに広い海をみて言いました。

「僕たちは協力できているだろうか。」

僕は叔父に聞きます。すると叔父は、

「募金とか、この街に旅行とかに来てくれるだけでも復興につながってるよ。最近、特別復興税というのができてね、それは復興を目的とした税金なんだけど、それである大きな堤防とかもできたんだよ。」と言いました。

僕はこの時、税金は人を繋ぎます、という言葉の本当の意味が分かりました。それは、税金は人の命や生活を繋ぐということだったのです。被災した直後、真っ暗だった街が今こうこうと光が照らされている、住宅を失った人たちが家に住むことができている。しかし、誰からも助けがえられなければどうなっていたでしょうか。つまり、助け合いというのは決して近くにいる人、自分から見える人にだけにすることではないのです。

自分から遠くにいる人、国を超えて助けを呼ぶ人、はたまた人ではなく森林などの自然そんな自然や人達に直接でなくとも助けることができる。それが税金なのではないでしょうか。税金の相手が見えなくても相手を思うことはできます。被災地の復興や環境の保護を思う、そんなことを税金を通して僕たち納税者は感じられるのではないのでしょうか。よりよい世界になることを望み、僕はこれからも国の発展や人の幸せのために納税をしたいと思います。